

聖書箇所：ルカの福音書 11 章 14～26 節

説教題：神の国が来ている

前回の所では、天の父が、私たちに最も良いものを与えようとしていること。それは聖霊であることを見ました。とは言われても、聖霊がどうしてそんなに大切なのか、与えられる側である私たちには少しぴんとこない面があります。折角与えてくださるのなら、もっと別のもののほうが良いとさえ考えてしまいます。今日は、なぜ私たちにとって聖霊が大切であり必要なものなのか、詳しく見ていきます。

## 1 イエスを試そうとする

### (1) イエスが悪霊が追い出したとき

14 節でイエスは口をきけなくする悪霊を追い出しておられます。これを見ていた群衆の中には、このように言う者がいました。「悪霊どものかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ。」ベルゼブルという名前については詳しいことはわかっていませんが、言おうとしている意味は理解できます。イエスは悪霊のリーダーを操り、子分である悪霊どもを追い出しているに違いありません。そのような批判です。

あるいはこのように言う者もいました。「あなたが神であるかどうか知りたいので、その証拠として奇蹟を見せてもらいたい。」イエスはこれを聞き、ご自分をためそうとしていることを見抜かれました。

### (2) 人の心の中にあることを言わせる

ここを読み、私たちの目はイエスが悪霊を

追い出したところだけを見ます。でも実はイエスは様々なことをここでされていることを知っていただきたいと思います。イエスは群衆の目の前で、悪霊を追い出すほかに少なくとも二つのことをされています。

その一つ目。今見たとおり、口をきけなくする悪霊が追い出されたとき、皮肉なことで、悪霊から解放された人だけではなく、周りの人々の口も開かせます。そこで何かを言わせるように導き、心の深いところにあるものを明るみに出そうとされていたのでした。ここで明るみに出されたのは、イエスをためそうとする心の思いです。

それが一つ目です。二つ目のことについては、また最後のところで触れていきます。

## 2 初めよりもさらに悪くなる

### (1) ユダヤ人も悪霊を追い出していた

イエスはこの後、いろいろなことをお語りになります。そのなかで、何を言いたいのかわかりにくいと思われる 24 節以降の話から見ていきます。

24 節は「汚れた霊が人から出て行って」からいきなり始まります。イエスはあることを前提としてこの話をしています。どんな前提か。そのヒントは 19 節にあります。「あなたがたの仲間、だれによって追い出すのですか。」悪霊を追い出せたのは、実はイエスだけではありませんでした。ユダヤ人の中にも悪霊を追い出す専門家がいました。それが「あなたがたの仲間」です。あなたがたの仲

間が悪霊を追い出したならどうなるか。それがこの話の前提です。

悪霊が追い出されると、家は掃除をしてきちんとかたづけました。悪霊にとりつかれていた人が、正常な状態に戻ったということです。

私はここを最初に読んだとき、疑問を感じたことを今でも覚えています。悪霊は人の良くない思いや汚れにつけ込み、そこを手がかりとして入り込んでくのではないか。ということは、家がきれいでかたづけ、汚れがないのだから、悪霊はもう一度入り込むなどできないのではないか。それなのに、この人の場合、七つの悪霊を連れて来て住みついてしまうという。それだけではない。26節の最後。「そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。」いったいどうしてなのだろう。家がかたづいているだけではだめなのか。それだけではだめだというのなら、ではどうすればいいのか。そんな疑問を感じました。おそらく皆さんも同じでしょう。

## (2) 聖霊を与える

なぜかイエスは、私たちが最も知りたいと思っている肝心なことを語りません。でも、すでにイエスはヒントを語っておられます。13節です。「してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおこのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありますでしょう。」

聖書読んでいるとなんとなく13節で一旦テーマが終わり、14節からまた新しいテーマが始まると考えます。別々の話ではなく、つながっています。14節では、口がきけな

くする悪霊が追い出されていきます。人々はそれを目撃し、驚きました。でも見えないところで、もう一つのことが行われていました。

さきほど、悪霊が追い出されていくことのほかに二つのことが行われていると言いました。一つ目は人々の心の中にあるものを明るみに出させることと言いました。二つ目がこれです。13節で、父なる神は求める者に聖霊を与えてくださるとの約束がありました。ということは約束の聖霊が、イエスを通して口がきけなかった人にも与えられていたこととなります。これが二つ目です。

## (3) もし聖霊がなければ

なぜ聖霊が与えられるのでしょうか。なぜ聖霊でなければならぬのでしょうか。もっと別のものではいけなかったのでしょうか。

ただ悪霊が追い出されただけだというのならどうなるのか。イエスはその事を教えようとしています。家は掃除をしてかたづいたかもしれない。でもそのままでは、その人は初めよりもさらに悪くなってしまうのです。せつかくイエスの手によって悪霊が追い出され、罪から救われたのに、初めの状態よりもっと悪くなる。そんなことが起きていいのでしょうか。もしそんなことになれば、イエスの救いになんの意味もなかったこととなります。

ですから、イエスは私たちの先々のことをどこまでも配慮されます。この方が与えてくださった救いが、私たちから奪われるようなことがないようにと、聖霊を与えてくださいます。「罪から救いました。後の人生は自分でがんばってください」と、突き放す方ではありません。

聖霊を与えてくださり、私たちをこの世の

悪から守ってくださいます。聖霊は言わば砦のようなものです。この砦が崩されることは絶対にありません。どんな悪霊であっても、聖霊をいただいている限り、家の中に入り込むことはできません。

私たちは悪霊とか悪魔と聞くと、急に不安になることがあります。何か少しでも悪いことが起きると、悪霊の働きではないかと考えたりします。確かに悪霊は、すべて消えてなくなったわけではありません。悪霊はいまなお活動していると言われます。しかし恐れることはありません。ヨブ記を見てわかるように、悪霊でさえ神の許可がなければなにひとつできないのです。それだけではない。私たちは聖霊をすでにいただいています。その聖霊が、私たちを悪の攻撃から守るために、どれほどすばらしい働きをいしてるか、もっと意識してよいと思うのです。もっと信頼していただきたいと願います。

### 3 神の国が来ている

(1) わたしの国はこの世のものではありません (ヨハネ 18:36)

そのことは、イエスが触れているように神の御国のことと密接につながっております。20節。「しかし、わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国があなたがたに来ているのです。」

多くの方は、神の国と聞けば、それは将来与えられるものであって、今日の前にあるものだとは思ったことはほとんどなかったでしょう。しかし、イエスは言われます。「神の国があなたがたに来ているのです。」

イエスは別の箇所、「わたしの国はこの世のものではありません」とも語っておられます。この世のものではないのに、神の国が

来ていることがどのようにして確認できるというのでしょうか。

#### (2) 聖霊と御国の約束

パウロはエペソ書1章14節でこう語っています。「聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保障です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」(エペソ1章14節)

ふだん、聖霊と神の御国を結びつけて考えることはあまりなかったかもしれません。でもパウロはこの二つのことは切り離せないことを知っていました。聖霊をいただいているのなら、もうそれはあなたが天の御国に迎えられることの完全な保障だと言います。保障が与えられているのなら、もうそれは神の国に入っているのと同じなのです。

私は天国には入れないかもしれないと悲しむ方がいます。人には言えない大きな罪を犯したということかもしれません。あるいは、私の心は、人をねたみ、人をさげすみ、人を憎んでいるようなそんな真っ黒けの心なので、だから天国には行けないと思っているのかもしれません。

イエスは私たちの心を知らずに救いを与えたのでしょうか。そんなことはありません。すべてを知ってくださっていて、そのことを全部承知の上で救い与えてくださったのです。救いが与えられたとき、聖霊もいっしょに与えられました。

聖霊が与えられているのに、罪を犯してしまったと嘆くのでしょうか。聖霊を悲しませてしまったと言うのでしょうか。でもパウロもはっきりと語っているように、私たちは救われても、聖霊をいただいたとしても、なお罪を犯し続けてしまう存在なのです。それが現

実です。

そんな私たちに対し、神はどうされますか。怒るでしょうか。嘆くでしょうか。いいえ逆です。私たちが落胆し、希望を失うことがあってはならない。そのためにこそ聖霊を与えるのです。私たちがうめくとき、御霊もうめいてくださるのです。神は私たちのためにそこまで心配しておられる。あらゆる手を尽くして、救いから漏れることがないようにと私たちに励まそうとされます。

私たちのあらゆる弱さのことを知ってくださり、必要なことすべて与えてくださっている神の御名をあがめます。